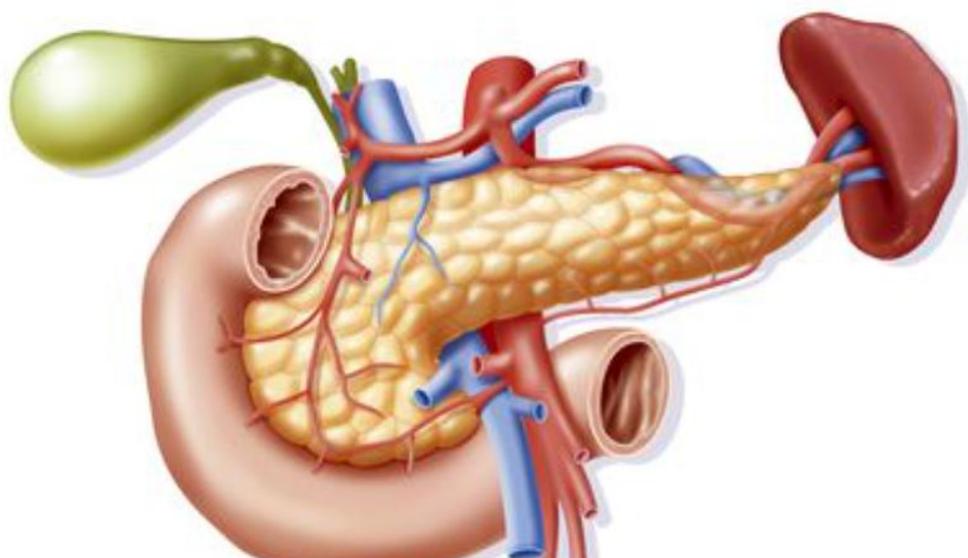


新たな膵がんの発生経路を発見

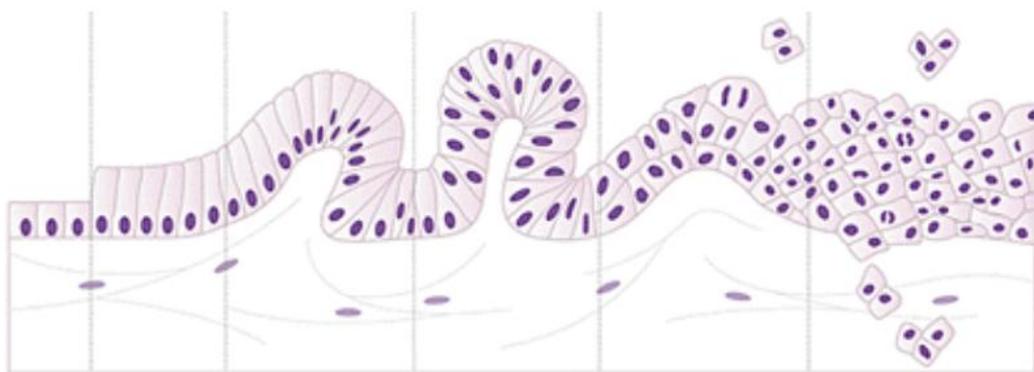
旭川医科大学の研究グループは、膵管内乳頭粘液性腫瘍（IPMN）関連の膵がんの形成に複数の発がん経路があることを明らかにし、「Gastroenterology」誌に報告しました。



従来、IPMN を背景とする膵がんは、IPMN が直接がん化する IPMN 由来がん

(Derived/Sequential) と、IPMN とは別の場所の病変ががん化する併存がん

(Concomitant/De novo) という 2 種類に分けられていました。今回、研究チームは遺伝子変異の蓄積パターンから、IPMN と同一起源の前駆病変が「枝分かれ」して、独立した病変を形成する新しい発がん経路として「Branch-off」を発見。IPMN に隣接する併存膵がんの成り立ちとの関連を指摘しています。



すい臓がんの早期診断への新たな糸口になる
か、注目されています。

